

- 問1 カリマンタン島（ボルネオ島）の北部に位置し、石油や天然ガスの輸出によって豊かな経済を実現しているブルネイについて、この国が加盟している地域協力組織と地理的背景の説明として適切なものはどれか。（2016年 岡山公立入試 類似）
- ASEAN（東南アジア諸国連合）に加盟しており、陸上ではマレーシアと接している。
 - APEC（アジア太平洋経済協力会議）のみに所属し、島国であるため他国と国境は接していない。
 - EU（欧州連合）と経済連携を結んでおり、フィリピンの南側に隣接している。
 - NAFTA（北米自由貿易協定）をモデルとした組織を作り、インドネシアと経済を統合している。
- 問2 東南アジアの島国であるインドネシアの統計資料において、年平均気温が約27.3℃、年降水量が約2672.3mmという高い数値が示されている場合、この地域の伝統的な生活様式について説明した文として正しいものを選択してください。（2023年 佐賀公立入試 類似）
- 高温多湿な気候に適応するため、風通しを重視した高床式の住居が作られてきた。
 - 冷涼な気候が続くため、暖房効率を高めるために家全体の気密性を高めている。
 - 乾燥した気候で水が貴重なため、屋根に傾斜をつけず、雨水を一箇所に集める工夫をしている。
 - 季節による気温の変化が激しいため、季節ごとに移動しながら生活するテント状の住居が一般的である。
- 問3 フィリピンの社会経済的な状況について、人口規模と1人あたりの国民総所得（GNI）の統計的特徴を説明したものとして、最も適切なものはどれですか。（2019年 愛知公立入試 類似）
- 人口は1億人を超えており、1人あたりの国民総所得は約3500ドルと、経済的には発展途上の段階にある。
 - 人口は1000万人未満と少なく、1人あたりの国民総所得は約3500ドルと、経済的には発展途上の段階にある。
 - 人口は1億人を超えており、1人あたりの国民総所得は4万ドルを超え、経済的には先進国の段階にある。
 - 人口は1000万人未満と少なく、1人あたりの国民総所得は4万ドルを超え、経済的には先進国の段階にある。
- 問4 ある国の経済指標を確認したところ、一人当たりの国民総所得が約1,600ドルと比較的低く、産業別人口構成において第1次産業従事者の割合が60%を超えていることが分かった。このデータが示す国として最も適切なものを選べ。（2017年 北海道公立入試 類似）
- モンゴル
 - タイ
 - イギリス
 - アメリカ
- 問5 東アジアの諸国の中で、2020年代の統計においてインターネット利用率が約97%ときわめて高く、主な輸出商品に機械類や自動車が含まれ、かつ輸出入のいずれにおいても中国が最大の貿易相手国となっている国はどこか、名称を答えなさい。（2024年 山梨公立入試 類似）
- 大韓民国
 - インド
 - オーストラリア
 - メキシコ
- 問6 東南アジアの巨大都市では、人口増加と経済発展によって自動車やオートバイの利用が急増しています。しかし、道路の整備が不十分なために発生する慢性的な交通渋滞は、単に移動を困難にするだけでなく、深刻な環境問題も引き起こしています。この交通渋滞が直接的な原因となって発生している環境問題の説明として、最も適切なものはどれですか。（2025年 和歌山公立入試 類似）
- 自動車の排気ガスの放出が続くことによる深刻な大気汚染
 - 森林伐採による二酸化炭素吸収量の減少と地球温暖化
 - 工場の排水が処理されずに河川へ流出することによる水質汚濁
 - プラスチックごみの不法投棄による海洋環境の破壊
- 問7 モンゴル周辺の地域において、人々が伝統的に「ゲル」と呼ばれる移動式住居を用いながら「遊牧」を行ってきた理由として、現地の自然環境と生活の因果関係を説明したものとして最も適切なものはどれですか。（2022年 埼玉県公立入試 類似）
- 年間を通じて乾燥しており、家畜が食べる草や水を使い果たす前に次の場所へ移動し続ける必要があるため。
 - 季節風（モンスーン）の影響で夏に激しい洪水が起こるため、標高の高い場所へ避難しやすい住居が必要だったため。
 - 森林を焼き払った後の灰を肥料として利用する農法において、数年ごとに耕作地を変えなければならないため。
 - 地中海性気候のように夏に乾燥するため、涼しい山岳地帯へ家畜を移動させる「移牧」を行う必要があるため。
- 問8 鉄鋼の生産に必要なエネルギー効率を比較した際、世界平均を100とした推計値（2010年時点）において、日本（85）や韓国（88）は、中国（99）よりもさらに低い数値を示しています。中国と比較した際の日本や韓国の鉄鋼業の状況について、正しい説明を選びなさい。（2018年 京都公立入試 類似）
- 中国よりも早い段階から環境対策や省エネ設備の投資を進めており、極めて高いエネルギー効率を実現している。
 - 中国よりも鉄鋼の総生産量が多いため、スケールメリットにより1単位あたりのエネルギー消費が少なくなっている。
 - エネルギー効率を向上させることよりも、安価な電力を大量に消費して安価な鉄鋼を増産することに特化している。
 - 国内の鉄鋼需要が中国よりも少ないため、エネルギーを消費する製錬工程のほとんどを海外に移転している。
- 問9 インドのIT産業は、アメリカ合衆国のシリコンバレーなどの企業と密接に連携して発展してきました。インドとアメリカ合衆国の間にある「約12時間の時差」を活かした業務運営の仕組みとして、最も適切なものはどれですか。（2024年 富山公立入試 類似）
- アメリカの企業が業務を終える夜間に、インド側で作業を継続することで、24時間体制の効率的な開発を行う仕組み
 - アメリカとインドで常に同じ時刻に会議を行うことで、意思決定のスピードを極限まで高める仕組み
 - 時差による気温の変化を利用して、サーバーなどの精密機器を冷却するコストを大幅に削減する仕組み
 - 日付変更線をまたがない位置関係を利用して、リアルタイムの金融取引を24時間中断せずに行う仕組み
- 問10 東南アジアのタイにおいて、1980年代以降に米や天然ゴムの輸出割合が低下し、代わって自動車や機械類の輸出が急増した背景にある経済的な理由は何ですか。（2022年 岐阜公立入試 類似）
- 政府による外資導入政策により、海外から多くの製造業が進出したため
 - 国内の農地をすべて工業団地に転用し、農業生産を完全に停止したため
 - ASEAN（東南アジア諸国連合）を脱退し、独自の保護貿易政策をとったため
 - 伝統的な手工業を近代化させ、高価な工芸品を主力輸出製品としたため
- 問11 1990年から2020年にかけての中国とインドの統計について、国民一人当たりの国内総生産（GDP）と人口増加の推移を比較した説明として、最も適切なものはどれか。（2025年 愛知公立入試 類似）
- 中国は国民一人当たりの国内総生産が飛躍的に増加し、インドは中国を上回るペースで人口の増加割合が上昇した。
 - インドは国民一人当たりの国内総生産が減少したが、人口の増加によって国内総生産の総額が中国を上回った。
 - 中国は一人っ子政策の影響で人口が激減したが、インドは経済成長を優先したため人口増加が停滞した。
 - どちらの国も経済成長の速度は同じであったが、中国のみが2023年に人口世界第1位から転落した。

答え合わせ・解説

問1	答え 1 ASEAN（東南アジア諸国連合）に加盟しており、陸上ではマレーシアと接している。	ブルネイは東南アジアのカリマンタン島北部に位置する立憲君主制国家です。1984年にASEANに加盟しました。地理的にはマレーシアのサラワク州に周囲を囲まれる形で国境を接しており、豊富な地下資源を背景に高い所得水準を維持しています。
問2	答え 1 高温多湿な気候に適応するため、風通しを重視した高床式の住居が作られてきた。	年平均気温が27度を超え、降水量が非常に多いというデータは、その地域が熱帯の高温多雨な気候であることを示しています。このような地域では、暑さと湿気への対策が生活上の課題となります。インドネシアなどの伝統的な住居に見られる「高床式」は、風通しをよくして体感温度を下げるとともに、地面からの湿気が直接屋内に伝わるのを防ぐ合理的な仕組みです。選択肢にある「冷涼な気候」や「乾燥した気候」は、示された統計データとは矛盾します。
問3	答え 1 人口は1億人を超えており、1人あたりの国民総所得は約3500ドルと、経済的には発展途上の段階にある。	フィリピンは東南アジア諸国の中でも人口が多い国の一つであり、その数は1億人を超えています。一方で、1人あたりの国民総所得（GNI）は約3500ドルにとどまっており、インフラ整備や産業の近代化を進めている発展途上の状況にあります。豊富な労働力を背景とした経済成長が期待されている地域です。
問4	答え 1 モンゴル	第1次産業従事者の割合が60%を超えているという数値は、遊牧による畜産業が主要な産業であるモンゴルの典型的な特徴を示している。タイは近年工業化が進んでおり（「アジアのデトロイト」などと呼ばれる）、第1次産業の割合はモンゴルほど高くはない。また、イギリスやアメリカのような先進国では、第3次産業に従事する人の割合が圧倒的に高く、第1次産業の割合は極めて低い。
問5	答え 1 大韓民国	大韓民国は1970年代以降、急速な工業化を遂げてNIEs（新興工業経済地域）の一角として発展しました。現在は情報通信技術（ICT）の普及が非常に進んでおり、世界トップクラスのインターネット利用率を誇ります。産業構造としては、半導体などの電子機器を含む機械類や自動車为主要な輸出商品となっており、地理的に近く経済的結びつきが強い中国が最大の貿易相手国となっています。
問6	答え 1 自動車の排気ガスの放出が続くことによる深刻な大気汚染	交通渋滞によって走行時間が長くなると、それだけ自動車やオートバイからの排気ガスの排出量が増加します。これにより、都市部の空気中に有害物質が滞留し、人々の健康にも影響を及ぼす大気汚染が深刻な社会問題となっています。
問7	答え 1 年間を通じて乾燥しており、家畜が食べる草や水を使い果たす前に次の場所へ移動し続ける必要があるため。	内陸アジアは海から遠く湿った空気が届きにくいいため、非常に乾燥しています。一度家畜が草を食べてしまうと再生に時間がかかるため、同じ場所に留まらず、広大な範囲を家畜とともに移動する「遊牧」という合理的な生活スタイルが確立されました。ゲルは、この頻繁な移動という生活の必要性から生まれた、持ち運び可能な住居です。選択肢にある「森林を焼く（焼畑）」や「季節風による洪水」は、それぞれ熱帯や温帯モンスーン気候の特徴であり、乾燥した内陸部には当てはまりません。
問8	答え 1 中国よりも早い段階から環境対策や省エネ設備の投資を進めており、極めて高いエネルギー効率を実現している。	日本や韓国は、1970年代の石油危機などをきっかけに、エネルギー価格の高騰に対応するため世界最高水準の省エネ技術を開発・導入してきました。中国も世界平均よりは高いエネルギー効率を誇っていますが、膨大な生産量を支える過程で旧式の設備も残っているため、数値上は日本や韓国の方がより高い効率（より低い消費エネルギー量）を示しています。鉄鋼生産量において中国は世界1位ですが、エネルギー効率の面では日韓がリードしているのが現状です。
問9	答え 1 アメリカの企業が業務を終える夜間に、インド側で作業を継続することで、24時間体制の効率的な開発を行う仕組み	インドとアメリカ合衆国は地球のほぼ反対側に位置しており、約12時間の時差があります。この地理的条件を逆手に取り、アメリカの営業終了時に作業データをインドへ送り、インドの昼間に開発を進め、翌朝のアメリカに成果を戻すというサイクルが確立されました。これにより、ソフトウェア開発などの分野で1日24時間をフル活用した効率的な運営が可能になり、インドのIT産業成長の大きな要因となりました。
問10	答え 1 政府による外資導入政策により、海外から多くの製造業が進出したため	タイ政府は1980年代から工業化を促進するため、外国企業の工場誘致を積極的に行いました。特に日本などの自動車メーカーや電気機器メーカーが数多く進出し、現地で組み立てから輸出までを行う拠点を形成しました。このため、農業主体の経済から、高度な付加価値を持つ自動車や機械類を輸出する工業主体への転換（工業化）が達成されました。
問11	答え 1 中国は国民一人当たりの国内総生産が飛躍的に増加し、インドは中国を上回るペースで人口の増加割合が上昇した。	1990年から2020年の30年間で、中国は「世界の工場」としての地位を確立し、国民一人当たりの国内総生産（GDP）を大きく右肩上がりに伸ばしました。対してインドは、経済成長も進んでいるものの、特に人口増加の勢いが強く、2005年を基準とした人口の伸び率では中国を大きく上回る推移を見せています。この結果、2023年にインドが人口世界第1位となりました。